

資料 4

2016 年度事業計画（案）

1. 事業計画全般

1.1 背景

引き続き経費削減・人員削減、海外雑誌購読価格の高騰、エンドユーザー検索の普及などにより、大学・公共図書館、企業情報部門の環境は厳しい状況にある。これらの部門を基礎とする当協会もその影響を受けざるを得ない。一方 3i 研究会の活動の活発化に見られるように、情報に新しい価値を見出そうとする動きもあり、これら新規のニーズを掘り起こしつつ、会員の満足度を高めて協会の発展を図る必要がある。

1.2 事業計画の重点

今年度は会の活動全般の活発化を目指すとともに、特に以下の点に重点を置く。

(1) 会誌「情報の科学と技術」の強化と会員・読者増強

当協会の会誌は当協会の顔であると同時に、情報活動分野の最新動向を紹介し、また会員の日常業務に役立つ情報を伝える重要なメディアである。これまで会誌編集・発行の中心であった「会誌編集委員会」を補強する形で「会誌経営委員会」を新設したので、両者協力により、会誌内容の改善・強化、会員・読者増強を図る。本年 4 月より同誌が J-STAGE に掲載されるので、これを宣伝の核とする。昨年度に引き続き、会誌増強を中心としたダイレクトメール活動をおこなうとともに、各種イベントやインターネットでの宣伝を強化する。

(2) 検索技術者検定の強化と受験者増加

試験実施委員会を中心として、検定試験の発展をめざす。前年度は受験者数が若干減少したことを反省点とし、事務局において今年度は受験者数増加の対策を取り、収益の改善を図る。

(3) INFOPRO シンポジウム・3i 研究会の発展と JST との協力強化

当協会と国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の共催による INFOPRO シンポジウムは、本年第 13 回を迎える。新体制となったシンポジウム実行委員会により開催され、好評であった昨年度に引き続き、本年度も成功裏に開催させるとともに、収益の改善を図る。

同じく当協会と JST の共催による 3i 研究会は、昨年関西の 2 グループを加え 5 グループ

資料 4

からなる第 3 期の研究会が発足し、今年度第 4 期を迎える。企業の特許・調査部門を中心に多数が研究会に参加しており、INFOPRO シンポジウムや会誌での発表など存在感を高め、関心を集めている。引き続き発展させるとともに収支の改善も目指す。

これら 2 活動を通じて JST との協力関係を深める。

(4) 各種事業活動の活発化

前記の他、出版事業、研修事業、西日本委員会の活動を推進するとともに、広報活動を強化する。

(5) 研究活動の活発化

日本オンライン情報検索ユーザ会 (OUG)、専門部会 (SIG)、3i 研究会などの研究活動を活発化させ、会員の研鑽と交流を図る。

(6) 事務局体制の合理化と収益の改善

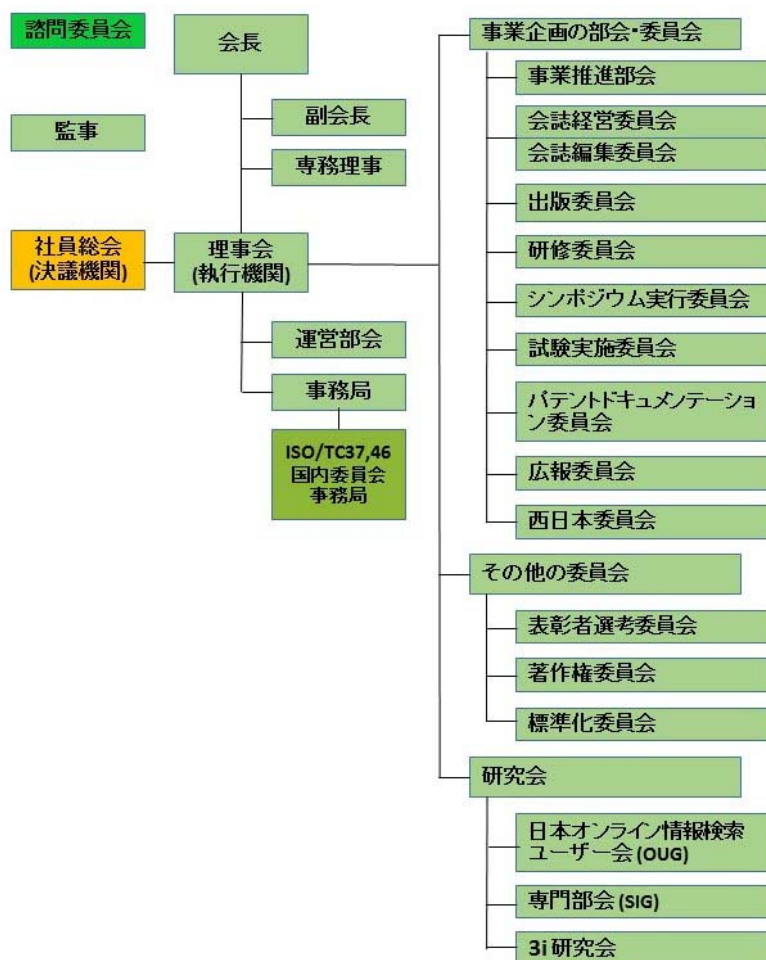
2014 年度末に大幅な経営合理化と諸事務の外注をおこなったが、引き続き事務局体制の合理化を進め、収益の改善と正味財産の増加を図る。経費圧縮のため事務所移転を実施する。

当協会の事業活動は、「研修事業」「出版事業」「会誌刊行事業」「情報検索能力試験」「シンポジウム事業」など、協会の人的、知的資源を生かした事業として進められている。今年度もこれらの事業について実施方法や経費の改善を図り、収益の向上に努める。

1.3 組織体制

本年度の当協会の組織は図のとおりである。

資料 4



2. 事業活動

2.1 事業推進部会

事業を担当する各委員会間の連携を強化するため、適宜会合をおこない、必要な措置をおこなう。

2.2 刊行事業

2.2.1 会誌経営委員会・会誌編集委員会

(1) 会誌経営委員会

新設された会誌経営委員会は、会誌編集委員会、事務局と連携して、健全な経営のための施策、記事構成に関する方針、読者増加に向けての施策、などの策定と実施の監督をおこなう。

資料 4

(2) 会誌編集委員会

会誌は、これまでと同じく特集論文を中心とした構成とし、連載や多彩な報告記事等も積極的に掲載していくこととする。また今後も、毎月の定時刊行を堅持する。

本誌は主に情報を扱う職務に就いている人を対象とした専門誌として、情報科学・情報技術・情報管理等に関する特集を企画しており、協会の内外で高い評価を得ている。会誌の核となる特集テーマ及び原稿の内容については、引き続き当協会の会員及び購読者に有益な情報を届けられるよう、広い視野に立ちつつ、斬新かつ実務的な視点を持って検討することとする。

また、他の委員会および研究会等との連携も、より積極的に行う。特に読者が高い関心を寄せている知財分野については、パテントドキュメンテーション委員会との連携により、特集や連載等による記事の充実を図る。また、研修委員会や著作権委員会等ともアドホックに連携し、特集や連載、コラム等の企画を検討していくこととする。

また、読みやすい誌面づくりも検討するなど、会員・購読者の満足度を高めることはもちろん、非会員や一般の人々にも会誌そのものそして当協会の活動を PR できるような会誌とすることを心がける。

事務的な事柄としては、2015 年度から編集工程の大部分を外注化した。現段階では外注化による弊害は特に出しておらず、スムーズに外注化をスタートできたと言える。今後は細かな手順の確認や、マニュアルの整備などを行い、編集業務の省力化、効率化にも努めることとする。

2.2.2 出版委員会

2011 年秋の委員会リスタート後、5 年が経過する。2016 年度は委員会活動の基盤確立を目指したい。

今年度は、以下の発行及び調整を行っていくこととする。

- (1) 協会の活動への寄与を視点に、柔軟な出版企画の検討を行う。
- (2) 紙の書籍にこだわることなく、電子出版を含めて出版企画の検討を進める。
- (3) 事務局との連携強化を図る。また、テキストの刊行を含めて、他の委員会との連携について、更なる充実を図る。

2.3 普及研修活動

2.3.1 研修委員会

当協会の発展と会員の資質向上を図ることを目的に、当協会と関連する機関や当協会内の委員会等と連携をとりながら、下記事項に関するセミナー・見学会を企画し、実施する。なお、セミナーの多くは会員以外にも開放し、広く我が国全体の人材育成に寄与すると

資料 4

もに情報科学技術の振興に資するよう努める。

(1) 当協会の発展に関する企画

- ・西日本委員会と連携し、試験対策セミナーを実施する（8月から9月予定）
- ・新年会と連携したセミナー等を実施する（1月予定）
- ・維持会員向けセミナーの開催

(2) 会員の資質向上及び会員以外の人材育成に関する企画

- ・情報関連業務および INFOPRO の業務の認知度を向上させるセミナーを実施する。
- ・情報関連業務に密接な、特許、著作権、情報検索に重点を置いたセミナーを実施する。
- ・情報関連業務に付随する、情報システム調達、データベース構築等に関するセミナーを実施する。
- ・会員の業務に参考となる見学会を実施する。

(3) その他

- ・各委員会及び各部会の活動の成果をセミナーに反映することを検討する。特に、OUG 及び SIG との連携の枠組みを作る。
- ・西日本委員会企画との共催（東西開催）を引き続き検討する。
- ・協会内外からセミナー開催の要望があれば、速やかに検討する。
- ・その他各委員会企画があれば積極的にこれを支援する。

2.3.2 シンポジウム実行委員会

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）との共催で情報科学シンポジウム（INFOPRO2016）を開催する。今年度は昨年度と同じく12月に開催する見込みである。実行委員会の活動をスタートさせ、充実した企画で開催できるよう準備を進める。

2.3.3 試験実施委員会

2016年度の試験実施は、例年と同時期の11月27日（日）を予定している。新試験「検索技術者検定」に移行して、昨年2回目を実施したが受験者数の大幅な増加という結果には至っていない。本協会が、試験を事業の重要な柱の一つとして位置付けるのであれば、広報委員会、研修委員会、出版委員会等の関連する委員会との連携やサポートが重要である。

(1) 委員会のメンバー増強

試験に関わる委員は重責な仕事であり、機密性も必要とされる。また専門分野ごとの人材も必要となる。今年度は委員の増強をさらに図る必要がある。

(2) 対応テキストの活用

資料 4

2015 年度に発行した下記 2 冊をセミナー等で活用する。

『情報検索の知識と技術 基礎編 ～検索技術者検定 3 級対応テキスト』2 刷

『情報検索の知識と技術 応用編 ～検索技術者検定 2 級対応テキスト』

(3) 解答例の公開

2015 年度に、1 級、2 級の解答例を会誌に公開、掲載したので、2016 年度も引き続き解答例を公開する。

(4) 過去問の会誌連載

過去の 1 級および 2 級の記述問題に対する解答例と解説記事の連載を 2015 年度に始めたが、今年度も引き続き連載を行っていく。連載の目的は、記述問題に対する解答例を公開することで、受験者への自学自習の参考に供することにある。

(5) 広報活動

広報委員会や研修委員会と連携を図りながら、今年度も引き続き広報活動にも力をいれる。ポスターやパンフレットに加えて新しい広報手段も検討する。

2.4 パテントドキュメンテーション委員会

パテントドキュメンテーションに関する会誌特集号の発行およびセミナー活動の活性化を模索する。

(1) セミナーの開催

会誌特別号の記事と連動するセミナーの企画を検討、実施する。

(2) 会誌特集号の発行

(3) 関連書籍発行の可能性を検討

(4) 他の委員会との連携

会誌編集委員会および研修委員会との連携支援を進める。

会誌の知財関連テーマ記事企画への協力、知財関連セミナーへの協力など。

2.5 広報委員会

協会活動のさらなる広報・普及に努め、会員交流および会員拡大の一助とするために、次に挙げる事項などを審議し、併せて必要な実務を行う。

(1) 協会の紹介リーフレットはじめ紙媒体による協会紹介資料を適宜改訂する。

(2) ホームページの充実化について検討を進める。

(3) メールマガジンを充実させるための検討を行う。

(4) ツイッターなどの通信手段を用いた広報活動について検討・実行する。

(5) 新春パーティーの企画を行い会員や一般の親睦を深める。

資料 4

2.6 西日本委員会

西日本地区を拠点として、以下の事業を企画・実施するとともに、他の情報関連機関とのネットワーク構築を推進する。

(1) 普及研修事業

① 講習会

- ・「検索技術者検定 3 級」対策セミナー
- ・「サーチャー講座：検索技術者検定 2 級」対策セミナー（東京会場にも講師派遣）
- ・その他
アンケート結果を活かしたセミナーを開催予定。

② 見学会

(2) 会員交流事業

① 「じょいんと懇話会」の開催

インフォ・スペシャリスト交流会（IS-Forum）と共催、その他の情報関連機関にも後援いただき、2016 年 11 月開催予定。

② 「情報活動研究会（INFOMATES）」の活動支援

2006 年 4 月、西日本委員会委員が中心となって大阪で発足した研究会で、「情報に係る仲間たち」の集いとして、年数回の研究会を開催している。当協会と独立行政法人科学技術振興機構が後援している本研究会の活動を支援する。

(3) 「検索技術者検定」大阪地区・京都地区の運営協力

- ・2016 年度 大阪試験会場・京都試験会場の試験監督及び運営協力（外部委託となる可能性もある）
- ・2016 年度「合格を祝う会」開催

(4) 西日本委員会 6 回開催予定

3. その他委員会活動

3.1 表彰者選考委員会

下記、協会賞各賞の表彰者選考を行う。

情報業務功労賞

教育・訓練功労賞

研究発表賞

優秀機関賞（機関表彰）

資料 4

協会事業功労賞（個人又はグループ表彰）

3.2 著作権委員会

以下のミッションのもとに活動を行う。

- (1) 著作権等に関する外部との情報交換および連携協力に関する協会の窓口をつとめる。
- (2) 著作権等の課題について、会長の諮問に対する答申、会長・理事会への提言を行う。
- (3) 著作権等の課題について、協会が外部に対して行う提言・要請等への参画および協力活動。
- (4) 協会会員等への著作権等に関する啓蒙・広報活動を担当部門との連携で実施する。
- (5) 協会の出版物等における著作権の扱いに関する検討を行い、担当部門に提案する。

3.3 標準化委員会

以下のミッションのもとに活動を行う。

- (1) ISO/TC37 国内委員会および ISO/TC46 国内委員会に委員を派遣して協力する。また協会内に設置されている ISO/TC37、ISO/TC46 国内委員会事務局に対し、必要に応じて支援を行う。
- (2) 協会が原案を作成した JIS 規格の検討・定期見直しを必要に応じ行う。
- (3) 協会会員等への標準化に関する啓蒙・広報活動を充実させる。
- (4) ISO/TC37 および ISO/TC46 国内委員会のホームページならびに標準化委員会のホームページのコンテンツの充実を図る。

4. 研究会活動

4.1 日本オンライン情報検索ユーザ会（OUG: Online User Group）

各分科会主査を中心にそれぞれ分科会毎の企画・運営を行い、有益な活動を進める。活動の継続性維持と活発化のためにも、「参加者の増員」「OUGのPR」について協会内各委員会等との連携と協力にも努める。また、各分科会共通のテーマに関する分科会の壁を越えたイベントの開催も模索したい。それぞれの活動成果は、適宜発表やホームページでの公開により、新規会員の獲得や広報に役立てたい。

4.1.1 化学分科会（年 11 回開催。月 1 回、第 2 火曜日を予定。8 月は休会）

- (1) ベンダーなどの訪問。講演会開催。
- (2) 勉強会開催

資料 4

テーマを選定し、各自報告する。
各自が疑問点等を持ち寄り、検討する。

4.1.2 ライフサイエンス分科会（年9回開催：月1回、第3木曜日。8月、12月、3月は休会）

(1) 活動内容

- ①講演会開催、ベンダーなどの訪問
- ②勉強会（検索演習等）
 - テーマを選定し、各自調査を行い報告する
 - 各自が疑問点等を持ち寄り、発表、ディスカッションする

(2) 分科会の運営方法

- ①参加メンバーは全員何らかの、役割（主査、連絡、伝達、企画）を担ってもらう。
- ②実際に活動するメンバーについてはメーリングリストを作成し、会の情報を知らせる。

4.1.3 インターネット／ビジネス分科会（年8回前後開催。開催月の第3水曜日を予定）

ウェブ情報検索、ビジネス関連事項、新ウェブ情報源などをテーマに次の活動を予定している。

(1) 活動内容

ウェブ情報検索、ビジネス関連事項、新ウェブ情報源などをテーマに次の活動を予定している。

- ①無料利用できる有用なインターネット情報の利用についての検討
- ②インターネット周辺の最新動向に関する情報交換、ほか

4.1.4 特許分科会（年11回開催。月1回、第2金曜日。8月は休会）

(1) 活動内容

特許分野をテーマに次の活動を予定している。

①検索演習

各会員の調査実務のスキルアップの為に、初心者から上級者までが参加出来る一般的な特許調査課題（先行技術、侵害予防、無効資料、技術動向等）かつ身近な技術領域から課題を選定し、検索用データベースの選択、キーワードや特許分類の選定などの基礎的事項から特許判断に踏み込んだ議論まで、参加者間の討議を主体として情報の共有と深化を行っている。年3回以上実施する予定。

②講演会

資料 4

関心事の高いテーマ（新興国の特許調査、特許 DB の新機能、特許分析ツール、特許調査方法など）に関して有識者、もしくはベンダー様に講演して頂く、又、その中の議論を通し情報の共有化、ベンダー様への要求などを行う。年 3 回程度実施する予定。

③宿泊研修

講演会や検索演習を実施し、演習課題の結果についての討論などを通じて、広く会員間のコミュニケーションを図る。年 1 回実施する予定。

④その他

研究活動として特定のテーマを手分けして調査し分科会で報告する。

会員間で特許調査などに関する疑問点や問題点を討議する場を設ける。

更に、Web グループウェア等の活用により会員間での情報交換、Q&A をリアルタイムで行う。

(2) 分科会の運営方法

現状の幹事会方式を踏襲する。また、新入会員などの要望を反映し易い体制を検討して、特許分科会の一層の発展を目指す。

4.2 専門部会 (SIG: Special Interest Group)

各研究グループ別の設定テーマで、専門技術や知識についての勉強会・情報（知識）交換会を開催し、得られた成果を会誌あるいはシンポジウム場で発表する。本年度も、以下 5 分科会での活動を継続する。新たな研究グループの立ち上げも目指し、活発化に向けて努力する。開催頻度・開催形態や会費などは、部会毎に設定している。

4.2.1 技術ジャーナル部会(隔月開催)

担当幹事制（コアパーソン）により活動している。2015 年度の活動テーマ（候補）は以下のとおりである。

(1) 活動内容

①企画

- ・編集委員や企画委員からの積極的な協力を得るための工夫
- ・技報製作へのモチベーション・協力体制

②編集・人材

- ・技報編集者に求められる資質とスキル、技報編集者の人材育成
- ・技報編集者のモチベーションアップの取り組み
- ・技報編集スキルの向上と伝承
- ・技報編集作業の規範／指針／判断基準

③利活用

資料 4

- ・ 技報の認知度アップ推進（社内外）
 - ・ 技報の営業活動や広報などへの活用のための施策・取り組み
 - ・ 海外に向けた技報（英文版）の活用状況
 - ・ 技報のW e b 化の活用方法
- ④管理・運用
- ・ 編集会議開催の目的と運用方法とその事例について
- ⑤その他（セミナー・講演の開催）
- ・ 校正・編集に関わるスキルについて
 - ・ デジタルアーカイブ事業
 - ・ 著作権に関わる課題

4.2.2 パテントドキュメンテーション部会（毎月開催、原則として火曜日、夕方）

(1) 活動内容（テーマ）

- ①特許情報検索・解析のための支援システムの動向検討
- ②情報専門ジャーナルのトピックス記事紹介（数回／年）
- ③日米欧の知財関連ユーザー会活動情報の収集・分析と海外連携
- ④外部知財活動に対する支援・連携の活動と委員派遣（講演を含む）
- ⑤Web ツール活用による部会活動の効率化
- ⑥情報交換：メンバー各自による自由プレゼンテーション
- ⑦当部会ホームページからの有用情報の発信とメンバー募集
- ⑧INFOPRO シンポジウムにおける部会活動研究の発表

4.2.3 分類／シソーラス／Indexing 部会（毎月年 11 回開催、8 月は休み）

(1) 活動内容（テーマ）

- ①「地球の科学（UDC 番号 55）」の部分その他についての UDC 番号から LCSH への変換のプロジェクト（継続）
- ②シソーラスについては、最近の動向や話題をフォローして発表、討論する。
- ③必要に応じて、その他の話題も取り上げる。

4.2.4 ターミノロジー部会（毎月年 6 回奇数月開催）

(1) 活動内容（テーマ）

- ①継続課題：情報検索と用語
 - ・「ターミノロジー基本用語集」の作成と周知をはかる（INFOPRO で報告した暫定案の改定作業など）
 - ・ ISO/TC37 関連のターミノロジー諸活動に関する情報を収集する

資料 4

- ・翻訳に関わる専門家および団体との共同研究会を開催する

4.3 3i 研究会

今年度も研究会への会員自身の解析スキルの向上と情報の新しい活用方法の獲得を目指し、国立研究開発法人科学技術振興機構の後援により、以下の通り第3期の研究活動を継続し、更に第4期の活動を行う。第3期より大阪地区においても2グループが活動開始している。

(1) 第3期の活動の継続

①月例研究会開催期間と頻度

- ・2016年4月～5月（月1回 前年度からの残り期間）

②研究成果発表

- ・中間報告会（大阪：2016年2月16日、東京：2月18日に実施済み）
- ・最終報告会（2016年6月に東京と大阪で開催予定）
- ・INFOPRO（2016年12月）
- ・「情報の科学と技術」2017年5月号に論文発表

(2) 第4期の活動

① 4期会員募集

- ・INFOSTA 及び関連機関のホームページで広報（2016年5月～7月）
- ・ガイダンス開催（東京、大阪で2016年7月中旬）

②月例研究会開催期間と頻度

- ・2016年8月～2017年5月（月1回）

③調査・分析ツール

・特許、文献、ビジネス情報等のデータベース検索および分析ツールは、数社の提供会社の協力を得て活用。

④第4期研究成果中間報告会

- ・2017年2月

⑤第4期研究成果発表

- ・最終報告会（2017年6月）
- ・INFOPRO（2017年12月）
- ・「情報の科学と技術」2018年3月号に論文発表

5. 調査・受託事業

資料 4

5.1 ISO/TC37 及び ISO/TC46 国内委員会

国際標準化機構 (ISO) の専門委員会 (TC) のうち、「情報とドキュメンテーション」(TC46)、「専門用語及び他の言語、情報内容の資源」(TC37) の 2 つの TC に関する国内委員会業務を、経済産業省から委託を受けた管理機関からの再受託または業務請負により次のように行う。

- (1) TC46/SC9 において国際図書館資料識別子 (International Library Item Identifier) の CD 投票、及びデジタルアーカイブ利活用のための国際標準の新規提案をおこなう。
- (2) TC37/SC4 において文書コンテンツの形式及びアノテーションの標準化および制限言語の標準化の新規作業項目 (NWIP) 提案を行う。
- (3) ISO/TC46 及び ISO/TC37 とそれらの各 SC の総会に委員を派遣する。
- (4) 国際電子投票案件の審議及び投票を実施する。

5.2 その他の調査受託等

その他当協会の人材や能力が発揮できる調査受託を積極的におこなう。

6. 関連団体との連携

国立研究開発法人科学技術振興機構とは INFOPRO シンポジウム、3i 研究会の活動において深く協力しているが、その他の情報関係団体、特許関連団体、図書館関連団体等とさらなる連携を深め、共催、後援、相互情報交換に努める。また当協会は日本学会会議の協力学術研究団体であるので、その地位を活用する。

- (1) 協会主催の講習会、セミナー、シンポジウム等の開催にあたっては、関連諸団体の共催・後援を依頼するとともに、外部関係諸団体に対し積極的に協力する。
- (2) 会誌の交換、寄贈を通じて協会活動の PR に努める。
- (3) 団体での、試験関連の動向を注視し、後援または協力を行う。

7. 事務局

7.1 全般

専務理事、事務局長、正職員 1 名、アルバイト 2 名の体制で、会の全般的事務運営をおこなうとともに、以下のように各種事業の実施、各委員会・部会活動の支援、会員へのサービス活動をおこなう。

資料 4

7.2 会誌発行業務

昭和情報プロセスと協力して、会誌記事の編集を支援するとともに、版組・印刷・配送業務を実施する。事務局担当の各種記事（連載記事、INFOSTA フォーラム、書評、集会報告、研修報告、行事予定表、会告、協会だより、など）を編集・準備する。また広告を依頼する。

J-STAGE 登載にともない、ホームページ、ツイッターなどインターネットでの宣伝の強化・改善をおこなう。

7.3 刊行事業

出版委員会、試験実施委員会と協力して、検定試験テキスト、その他の出版物の出版業務をおこなう。出版物の販売は（株）毎日学術フォーラムに委託する。

前年度に引き続き、（株）毎日学術フォーラムに書籍販売業務を委託する。アマゾンにも引き続き出店する。

7.4 会員・購読者業務

前年度に引き続き、（株）毎日学術フォーラムに請求・督促業務を委託する。

会誌の J-STAGE 搭載にともない、正会員勧誘のダイレクト・メールを 2-3 回実施する。公共図書館・大学図書館の会誌購読勧誘のダイレクト・メールを各 1 回実施する。

必要に応じて雑誌広告を実施する。

7.5 検定試験実施

試験実施委員会と協力して、検索技術者検定を実施する。本年度は会場運営と受験票の配送を（株）全国試験運営センターに委託する予定である。受験申込み受付、試験採点・可否通知は試験実施委員会と協力して事務局がおこなう。本年は試験の広報等を前倒しでおこなう。また受験申込みサイトを改良する。

7.6 シンポジウム実施

シンポジウム実施委員会および国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と協力しシンポジウムを実施する。本年度は準備と当日運営の多くを（株）ディック・アルファに委託する予定である。

7.7 各種研修事業

各種研修のウェブ受付、請求書と参加票の発送、当日受付をおこなう。

7.8 研究活動の支援

資料 4

オンライン・ユーザ会 (OUG)、専門部会 (SIG) の会場予約、当日支援、各種連絡などの支援をおこなう。3i 研究会については引き続き委託契約による事務支援をおこなう。

7.9 理事会・総会等の支援

理事会、総会、諮問委員会、運営部会などの開催の日程調整、会場予約、実施などを支援する。

7.10 各種委員会の支援

各種委員会開催を支援する。

7.11 受託活動事務

ISO など受託活動の契約事務、報告書作成、会議の準備、謝金・交通費支給、経理処理、その他の事務活動をおこなう。

7.12 各種広報・販売活動

メール・マガジンを月 2 回発行する他、随時発行する。ホームページを維持管理する。広報委員会と協力して広報資料を作成する。

図書館総合展にてポスターを展示するなど広報活動をおこなう。む

7.13 ISO/TC37,46 国内委員会事務局

契約に基づき ISO/TC37,46 国内委員会事務局を運営する。

7.14 各種事務運営

総務・経理など事務運営をおこなう。

7.15 事務職員の担当

事務局長	光富 健一	総括、ISO 関連受託事業、会誌編集委員会
担当	鈴木 吉之	各種委員会、INFOPRO シンポジウムの運営、検索技術者検定の試験実施、メルマガ発行、ホームページ維持管理
担当	木村かな子	経理
担当	廣田みどり	会誌編集管理

会員管理、購読者管理、書籍販売事務 毎日学術フォーラムに委託
会誌編集事務 昭和情報プロセスに委託

以上